

能登半島地震から1年半
大水害からまもなく1年

いまだに深い傷跡が 残されたままです

珠洲市、輪島市を視察

千葉県議会地震津波議員連盟

千葉県議会地震津波議員連盟は5月15日～16日、能登半島・珠洲市と輪島市を視察し、日本共産党から同議連メンバーの丸山慎一県議が参加しました。

第1日目 能登里山空港の商業施設（仮設）で、石川県庁職員から、昨年1月の地震被害と9月の大水害について説明を受けました。

その後、珠洲市内の災害瓦礫処理場や避難場所となった小学校、地震と津波で深刻な被害を受けた宝立地区などを訪問。避難場所では、避難生活をして全体のまとめ役を担った方から当時の様子を詳しく聞きました。

宝立地区では、家が撤去されたり流されて更地になった場所や、崩れたままの家屋、傾いたり折れている電柱など、災害の傷跡がそのまま残されていました。さらに「地震から立ち直りかけたところに水害が襲い、田んぼもつくれず、心が折れた人がたくさんいる」とのことです。



↑崩れたままの家屋



↑瓦礫処理場



↑折れたままの電柱

第2日目 七尾から「のと鉄道震災語り部列車」で輪島へ。語り部列車は「のと鉄道」が観光列車として運用していたもので、昨年元旦の地震当日に列車でガイドをしていた方が当日の体験を語り、沿線の災害の様子を話してくれました。

輪島では、スーパー内で開設している朝市を見学。その後、全焼した元の朝市の場所や、周辺の被災現場を歩いて回りました。輪島の朝市は日本三大朝市の一つ。被災前は200店舗ほどが軒を連ねていましたが、昨年7月から開設したスーパー内では40店舗ほどです。それでも、鮮魚や干物、輪島塗の箸やお椀、野菜などをにぎやかに売っていました。

被災前の朝市の場所は、「朝市通り」の名前が刻まれた石柱が残っているだけで、通りの周辺は何も残されていません。

移動途中も、浮き上がったマンホール、石畳が剥がれ縁石が傾いた歩道、崩れた神社などがありました。



↑スーパー内



←石柱だけが残った朝市



↑マンホール



加藤 英雄
(柏市)
総務防災常任委員



みわ 由美
(松戸市)
健康福祉常任委員



丸山 慎一
(船橋市)
県土整備常任委員



浅野ふみ子
(市川市)
文教常任委員